

『友の会 研修会』

友の会事務局 西 一彦

友の会研修会は、昨年(2011年)の11月17・18日の両日に「神仏と紅葉の旅」と題して「神仏います近江」の観覧と日吉大社、湖南三山の一つの常楽寺へ参拝して来ました。

今回の三館連携特別展「神仏います近江」は、砺波市美術館顧問の石丸正運先生が実行委員長を務め開催されたものです。

当日の朝、砺波は曇り空でしたが、滋賀県は晴れの予報、参加者16名は北陸道を一路滋賀県へと出発しました。最初の展示会は、ミホミュージアム「天台仏教への道-永遠の釈迦を求めて-」と題し、近江伝来の仏像・仏画・教典を中心に、釈迦入滅から始まり、大乘仏教とともに進展する仏、菩薩の世界、最澄、円仁、円珍らによる天台仏教の確立までの道のりを石丸先生の案内で観覧しました。ミホミュージアムの紅葉は始まったばかりで、いまひとつ。もう少し遅ければきっとすばらしい景色だったでしょう。

2日目の最初は日吉大社参拝。9時半頃は参拝者もいなく静寂感の漂う中を、一行は石丸先生に案内してもらいながらガヤガヤと山王鳥居をくぐり、西本宮殿から宇佐宮、白山宮、御輿収蔵庫、東本宮を巡りました。

次は、大津市歴史博物館「日吉の神と祭」。日吉の神々は、延暦寺の守護神として崇敬をうけ、神と仏が融合した独特の世界を作ってきた社だそうです。この神々を祭る「山王祭」は、湖国を代表する勇壮な春祭りで、日吉の神々が里に幸いをもたらすべく、一カ月半に及ぶ行事が展開するとのこと。また、近江に伝来する神像が一同に展示され、めったに目にすることの出来ない神の姿を堪能しました。

昼食後は、滋賀県立近代美術館へ。「祈りの国、近江の仏像」をテーマに、9世紀末から16世紀末までの

仏像が展示され、寺外では初展示となる園城寺(大津市)蔵の木造金剛力士像や、永昌寺(甲賀市)蔵の木造地藏菩薩立像などが、圧巻でした。最後は、湖南三山のひとつである天台宗阿星山常楽寺参拝。

ご住職に常楽寺の縁起をお話いただき、国宝の本堂や重文の釈迦如来像、風神・雷神二十八部衆や国宝の三重塔を観覧しました。2日目は4箇所と少し強行軍でしたが天気にも恵まれ、全員元気よく帰って来ました。次回も皆様のご参加をお待ちしています。



ミホ・ミュージアムにて



日吉大社にて

オリジナルミュージカル COLOR カラ みつけようキラキラな夢



地域で創る砺波発オリジナルミュージカル! 「COLOR」 砺波市文化会館

「COLOR」実行委員会委員長 小幡 豊

砺波市文化会館と「となみミュージカルキッズを応援する会」では、来たる3月3日(土)・4日(日)の両日、砺波市文化会館大ホールにおいて、オリジナルミュージカル「COLOR」を公演いたします。

〈あらすじ〉

町一番の看板描きサムのもとで働く見習いのペタは、いつか人を感動させる看板を描きたいと夢んでいます。その夢を応援する看板屋の娘ナナは、自分もいつかペタのように素敵な夢を見つけたいと思っていました。

ところが、なかなか思うような仕事をさせてもらえず、焦ったペタは、夢を必ず実現させることができるという闇の結社「夢銀行」に自分の夢を預けてしまいます。

人が変わったようにやる気をなくしてしまったペタに失望するナナ。怒ったサムは、危険な仕事に一人で出かけ、大けがをし、二度と看板を描けなくなってしまいます……。ペタは……。(後は公演をお楽しみください。)

今回の公演には、「となみミュージカルキッズ」の子供たちをはじめ、公募して集まった地元の子供たちや大人の人たち総勢36人が出演します。脚本や作曲は地域の方による創作。演出・ダンス・歌唱・演技などの指導は地元の指導者の方々、舞台美術、小道具、衣装などの製作は父母の会の皆さんやボランティアの方々で作上げた“地域で創る砺波発のオリジナルミュージカル”です。

今回の作品は、夢を持つこと、その夢を実現させるために悩みながら成長していく子ども達にスポットを当てた楽しいミュージカルです。一度聞いたら忘れられない楽しい曲から、ジャズ、演歌までバラエティに富んだ音楽、出演者の躍動、特に子供たちのひたむきで真剣な姿は、きっと感動を与えてくれるものと思います。

今回はじめて大ホールでの2回公演となります。一人でも多くの皆さんに観ていただき、ミュージカルを通して、砺波における文化の輪をさらに広げていければと願っています。

ご来場を心からお待ちしております。



練習風景

—編集後記—

新しい年が始まって、早2ヶ月。雪も一段落して、すこしづつ春らしくなってきた中、東京国立博物館で「北京故宫博物院200選」展を観ました。平日でも入場制限になるほどの大盛況で、漆器や刺繍、織物など工芸作品に見とれてきました。たくさんの「書」に、多くの方がじっくり鑑賞されていましたが、私がおのすばらしさを感じるには、まだまだ勉強が必要だと反省し、会場を後にしました。(M)